

母子のための



地域包括ケア病棟推進会議

少子化に伴う分娩取扱施設の減少等、出産環境の変化に伴い、助産師にはさらなる専門性の発揮が期待されています。本会は、助産師の役割発揮の環境整備として2021年から「母子のための地域包括ケア病棟*」の推進をしてきました。本会議は、地域におけるリーダーシップの役割が期待される周産期母子医療センターの看護管理者の皆様へ、助産師が役割発揮をするための環境整備にご協力をいただきたく、周産期医療を取り巻く国の動向および、好事例施設の取り組みについて情報提供する機会を設けました。是非ご参加ください。



*「母子のための地域包括ケア病棟」とは、助産師をはじめとする看護職が妊産婦と新生児に集中してケアができる体制が整備され、妊娠・出産・子育て期において切れ目なく継続したケアが提供できる場と機能をもつ病棟のことだよ。①院内助産・助産師外来、②産科関連病棟におけるユニットマネジメント、③医療機関における産後ケア事業、④地域連携、の4つの機能を一体的に実施しているんだね。

日時

2025年9月25日(木)
13:30-16:00

開催方法

Zoom Webinar (ライブ配信)

対象者

総合周産期母子医療センターの
看護管理者等

申込

8月25日(月)～9月16日(火)
以下URLから専用フォームにて
受付 (<https://online-conference.jp/josanshi2025/register>)

※申込等の詳細は右のQR
コードからご確認ください。
ご質問等も、原則申込時に
フォームにて事前に受け付け
いたします。



プログラム

開会挨拶

秋山智弥(日本看護協会 会長)

「妊娠・出産・産後に関する様々な支援
等のさらなる強化にむけて」

講師／柴田 直慧氏(厚生労働省保険局
保険課 課長補佐)

「地域のニーズに応えるために、周産期
母子医療センターの看護管理者に期待
されていること」

講師／井本寛子(日本看護協会 常任理
事)

「地域の妊産婦が利便性を保ちながら、
妊娠から出産・産褥期まで安心・安全に
過ごせるよう支援する体制を構築した
事例」

講師／阿部 慈氏(香川大学医学部附属
病院 看護部長)

質疑応答・まとめ

井本寛子(日本看護協会 常任理事)

主催



公益社団法人

日本看護協会